

## 1999・環境アニュアルレポートの発行について

平成11年6月25日  
北陸電力株式会社

当社では、経営方針の柱の一つに「地球環境に優しい経営活動の展開」を掲げるとともに、活動の指標としている2000年度目標の達成に向けて、地球温暖化問題への対応から資源の有効活用、地域と一体となった環境保全活動に至るまで幅広い取り組みを展開しております。

このたび、1998年度の環境保全活動の実績を「環境アニュアルレポート」として取りまとめましたので、お知らせします。なお、本レポートは1994年度から毎年発行しており、今回で6回目となります。

### < 1999環境アニュアルレポートの概要 >

#### 1. レポートの構成

当社では、環境管理規程(社内規程:1997年9月制定)に則り、1998年度から「北陸電力環境管理計画」を策定し、環境保全活動を実施してチェック&レビューを行っています。本レポートは、その結果について、管理項目ごとに章だてしつつ各施策の実績をトレンドグラフ、図および写真で見やすく掲載しております。

#### 2. 管理項目(施策)の目標達成状況

1998年度北陸電力環境管理計画に掲げた25施策の目標は、24施策で達成することができました。(別紙 1998年度北陸電力環境管理計画実績参照)

唯一目標が未達成の施策は「ペーパーレス化の推進」で、パソコン活用や両面・裏面コピーの徹底が不十分であったことが考えられます。今後、諸施策のさらなる徹底により、ペーパーレス化を一層推進したいと考えております。

### 3 . 1998年度の主な成果

#### (1) 地球温暖化問題への対応

地球温暖化の一因となる二酸化炭素の排出抑制に努めた結果、発電電力量当たりの二酸化炭素排出量は0.079kg-C/kWhとなり、目標の0.091kg-C/kWhを大きく下回りました。この主な要因として、志賀原子力発電所1号機の高稼働等により、発電過程において二酸化炭素を排出しない原子力発電の構成比率が25%まで高まったことがあげられます。

ちなみに、基準年である1990年度の電源構成で発電した場合と比較すると、二酸化炭素排出量は24%抑制したことになります。

#### (2) 資源の有効利用の推進

発電、送電および配電の各部門から発生するさまざまな産業廃棄物についてリサイクル用途の拡大に努めた結果、産業廃棄物の有効利用率は1997年度から12ポイント向上し94%となりました。これは、石炭火力発電所で発生する石炭灰の有効利用量が大幅に増加したことによるものです。

#### (3) 地域と一体となった環境保全活動の推進

富山県内の企業、自治体、学校、団体で構成する「とやま古紙再生サークル」(事務局:当社)は、機密文書リサイクルシステムの構築などの独創的な活動が高い評価を受け、リサイクル推進功労者等表彰において内閣総理大臣賞を受賞しました。

また、富山支店につづき、石川支店でも、子供たちに環境と森林とのかかわりを学んでもらうことを目的とした「どんぐりーんCLUB」を開催しました。会場となった森林公園三国山キャンプ場では、家族で植樹を行ってもらいました。

#### (4) 環境管理の推進

富山新港火力発電所では併設する富山新港共同火力発電所と合わせ、1998年5月に環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得しました。また、他の4火力発電所、志賀原子力発電所および全支店でも環境マネジメントシステムの構築を進めており、1999年度中に完了することにしております。

なお、志賀原子力発電所では、1999年度中のISO14001認証取得を目指しております。

当社と地元企業（タケオカ自動車工芸）で共同開発した1人乗り小型自動車「ミリュー」が、（財）環境調査センターと日刊工業新聞社が主催する「環境賞」の優良賞を受賞しました。

本レポートとしては初めて環境対策関連投資額（232億円）について掲載いたしました。今後、国内外の情報を収集しながら環境保全コストの把握方法・公表のあり方などについて検討していくことにしております。

以上が、1999環境アニュアルレポートの主なポイントです。本レポートをご覧になった皆さまからの率直なご意見をたまわることができれば幸いです。

以 上

## 1998年度北陸電力環境管理計画実績

1998年度環境管理計画の目標値については、レポートの紙面上掲載してありませんので、以下の表をご参照ください。

表 1998年度北陸電力環境管理計画実績

項目	取組課題	施策	1998年度目標	1998年度実績
地球環境問題への対応	1. 地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> 排出量の抑制  ・原子力発電比率の向上  ・火力発電所熱効率の向上 ・既設水力改修による出力増加 ・送配電損失率の抑制 ・太陽光発電の実証導入 省エネルギーの推進 ・お客さまへの省エネコンサルティング強化 ・自社ビル電力使用量の抑制	0.091kg-C/kWh  23% (自社分13%) 38.8%以上 4,200kW 5.0% 137kW(累積)  620件  1.0%減(気温補正・対前年度比) 実績把握	0.079kg-C/kWh  25% (自社分14%) 39.2% 4,200kW 4.9% 137kW(累積)  789件  2.6%減(気温補正・対前年度比) 実績把握
	2. オゾン層保護	特定フロン消費量の削減	90%以上 0.3t以下	90% 0.02t
地域環境問題への対応	1. 大気環境保全	SO <sub>x</sub> ・NO <sub>x</sub> 排出量の抑制	SO <sub>x</sub> NO <sub>x</sub> 0.4g/kWh程度 0.3g/kWh程度	0.36g/kWh 0.29g/kWh
資源有効活用の推進	1. リサイクルの推進 2. プレサイクルの推進	産業廃棄物有効利用率の向上  ペーパーレス化の推進	83%  27%減 (対1995年度比)	94%  21%減 (対1995年度比)
地域と一体となった環境保全活動の推進	1. 地域古紙リサイクル活動の充実・拡大 2. 地域への環境情報の提供	北陸3県オフィス古紙リサイクルの推進  環境月間等行事の開催及び協力  アニュアルレポート・インターネットによる公表	1,950t (古紙回収量)  50回  2回	2,013t (古紙回収量)  60回  2回
研究開発	1. 地球温暖化問題に関する研究 2. 新エネルギーの研究	CO <sub>2</sub> の回収技術の研究  CO <sub>2</sub> の処分技術の研究 溶融炭酸塩燃料電池(MCFC)の研究	回収コストの低減  置換速度の把握 不純物が入るの影響評価	回収コストの35%低減  置換速度の把握 不純物が入る(SO <sub>2</sub> )での耐久性確認
環境マインドの高揚	1. 従業員教育の充実	環境セミナーの開催	20回	21回
環境管理の推進	1. 環境マネジメントシステム(EMS)の社内展開 2. 環境管理の充実	EMSの認証取得  EMSの構築  環境管理推進責任者会議の開催	富山新港火力  原子力発電所 火力発電所 3支店モデル部門 4回	富山新港火力  原子力発電所 火力発電所 3支店モデル部門 4回